

2023
NEW YEAR

令和 5 年 1 月 24 日 第 71 号

+K ころ

発行元 行田中央総合病院 広報委員会
埼玉県行田市富士見町 2-17-17
TEL 048 - 553 - 2000

発行責任者 川 島 治



C O N T E N T S

- ➔ 院長挨拶
- ➔ 院内研究発表会
- ➔ ホームページリニューアル
- ➔ 誤嚥性肺炎予防の取り組み
- ➔ 外来診療担当医師一覧（R5.1.1現在）

病院 理念

- 私たちは「病気を診ずして病人を診よ」の精神で、心温まる生涯医療センターを目指します。
- 私たちは患者様のために最善を尽くすことに誇りを持ち、笑顔で活躍できる職場作りを目指します。



★★ 病院と地域の方々を結ぶ広報誌 ★★

+K 行田中央総合病院



ホームページはこちら

<http://www.gcgh.jp/>



院長 川島 治

今年は卯年



うさぎは多産で繁殖しやすく、足が速くて躍動感があるため、西洋では豊穡や生命力のシンボルとされ、幸運のお守りなどになっています。また「植物の成長」という意味もあり、新しいことに挑戦するのに最適な年と言われています。

しかし私が「うさぎ」のことで思い出すのは童謡『ふるさと』の一節♪～うさぎおいしかの山～♪です！子どもの頃は「うさぎ美味しい＼(o^~^o)／・・・」と思い込んでいました。(^^;) べ。



何はともあれ、キケンが迫れば「脱兎」のごとく退散し、うさぎは後ろ足が発達していて坂を上るのが得意なことから、「うさぎの上り坂」のたてえのように、良い条件に恵まれてトントン拍子に持ち前の力を存分に発揮できるように。ただし！欲張って「二兎追うものは一兎をも得ず」にならないように、今年も堅実に歩みを進めてゆきたいと思います。本年も宜しくお願い致します。



第13回 院内研究発表会を開催しました



令和4年11月12日(土)より、感染対策を講じた上で3回に分け、第13回院内研究発表会の開催を致しました。今回は、院内各部署・行田消防署様・石井クリニック様・ケアハウス緑風苑様の発表を含め9演題の発表となりました。

上映方式での開催方法を取りましたが、本年度は新たな試みとして初日に会場より質疑応答をいただき、2回目以降はその質疑応答の様子も含めた演題上映と致しました。

今後もこの研究成果を日々の業務に活かし、さらなる改善に役立てたいと思います。

実行委員長 透析センター（臨床工学） 根岸

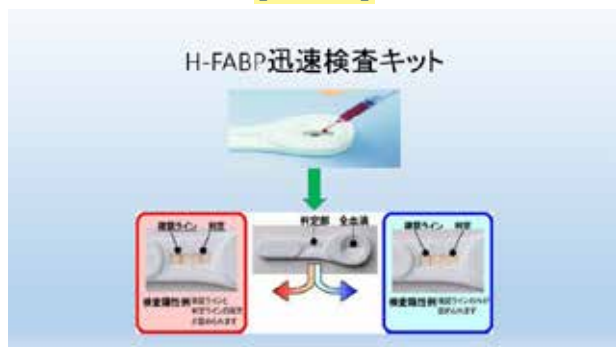
【外来】

第13回 研究発表会	
発表者	発表題目
1 外来	発熱外来の現状と改善への取り組み ～専用ダイヤルと専任スタッフの配置を試みて～
2 5階病棟	コロナ禍における入居生活の変化 ～心に寄り添う看護を目指して～
3 検査科	胸痛時に使用する迅速検査キットの切替えについて
4 医療法人 石井クリニック	経骨高圧骨折に対する一期的人工関節全置換術後のリハビリテーションの経験
5 社会福祉法人 清草会 ケアハウス 緑風苑	「ほせつ介護の発達」～利用者との関係の再構築～
6 放射線科	高濃度乳腺について ～アンケート結果から見てきたもの～
7 託児所	子どもファーストとは何だろう ～満足度アンケートを通して～
8 行田市消防本部	自動式心マッサージ器について
9 院長	1000万円と寿命10年分の話



コロナ禍でもできる看護を目指し、オンライン面会やLINEを活用しました。

【検査科】



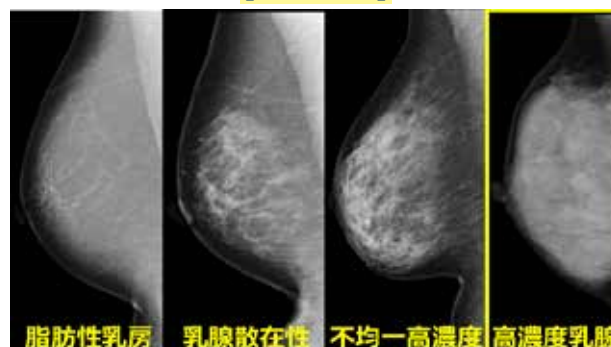
心筋梗塞発作時に行う重要な検査キット2種類の比較により、性能に差がある事が分かりました。

【託児所】



保護者が安心して働き続けられるように。託児所は子供ファーストです。

【放射線科】



高濃度乳腺の認知度は低いため、情報発信の必要があり、その方法も検討していきます。

【外来】



コロナ患者様の電話対応で通常業務が滞るため、専用ダイヤルを設置し、業務改善しました。



当院のホームページを10数年ぶりにリニューアルしました。



かわいらしい赤ちゃんの成長を、オリジナルのパラパラ漫画で描くトップページが印象的です。患者様が見やすく、使いやすくなるよう、一生懸命考えました。重視したのは閲覧者の80～90%が使用していると言われる、スマホでの見やすさ・使いやすさです。

実はこのホームページのリニューアルは「再生プロジェクト」と呼び、様々な部署から若手職員が集まったプロジェクトチームが、1年かけて準備してきたものです。長い長いコロナ禍で、当院も傷を負いつつも、地域の方々に助けられながら事業を続けています。その厳しい状況からの力強い「再生」を象徴する事業として、このリニューアルを行いました。

当院の特徴を改めて考え直し、まとめた全体構成。多くの職員の協力により、医師をはじめ、職種を問わず活躍する姿にて登場してもらっています。

ひとつのホームページですが

- 病院全体の総合案内
 - 総合病院ではめずらしい産婦人科
 - 年間1万人以上にご利用いただいている健康管理センター
 - 新しい力を集める職員採用専用ページ
 - 介護・福祉事業の関連社会福祉法人 と、
- 5つのページが合体した構成となっております。

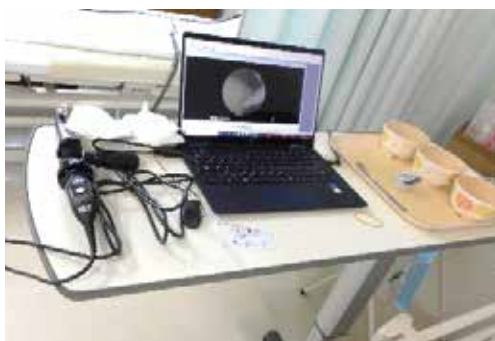
こだわりいっぱいの当院ホームページに、ぜひ一度遊びに来て、見て、触って下さい！



摂食支援チームが発足しました

摂食支援チームでは、脳血管障害(脳卒中)・加齢などによる摂食(食べる事)、嚥下(口の中の物を飲み込み、胃に送ること)障害の患者様を対象に行います。誤嚥性肺炎や窒息のリスクを回避しながら、栄養状態や食事の状態、口の中の衛生状態をチェック・評価し、多くの医療専門職(摂食支援チーム)との連携により、治療や食べる機能の回復訓練をします。

当院では、嚥下障害が疑われる患者様に対して、嚥下造影(レントゲン)・嚥下内視鏡を実施し、患者様に合った食事形態や食事姿勢をチェックした上で、摂食リハビリテーションの立案や評価を行っています。



誤嚥性肺炎とは

口の中にある細菌が口の中に付着し、それを誤嚥(食べ物が気管へ入ること)して吐き出せないで放っておくと肺の中で炎症を起こしてしまう肺炎のことです。2030年には死亡者数が約13万人まで増えるという予測があります。高齢の方にとっては身近に迫る問題です。

気を付けて! 嚥下障害のサイン

- ・ 食事中にむせたり、せき込んだりする。
- ・ 喉がゴロゴロなる
- ・ よく熱が出る
- ・ 痰がたくさん出る
- ・ 食べるとすぐに疲れてしまい、全部食べられない
- ・ 食事を自分から食べようとしめない
- ・ 食べ物が口の中にいつまでも残っている
- ・ 口の中が乾燥している

誤嚥を肺炎に発展させない3つの方法

- ・ 口の中を清潔に保つ
- ・ 誤嚥を減らす
- ・ 体力をつける



